

平成 2 7 年度

事業報告

社会福祉法人 能美市社会福祉協議会

平成 27 年度事業報告

平成 27 年度における事業の状況は、次のとおりであった。

I. 住民の参加と協力を得た組織運営の取り組み

①理事会、評議員会を開催し、地域ぐるみでの地域福祉の充実を図った。

会議名	開催回数	開催日	開催場所	案件
理事会	第 43 回	5 月 20 日	能美市役所	①評議員の委嘱の同意について ②平成 26 年度事業報告及び各会計収支決算の認定について
	第 44 回	7 月 30 日	ふれあいプラザ	①定款の一部変更について
	第 45 回	3 月 28 日	ふれあいプラザ	①評議員の委嘱の同意について ②専決事項の報告について ③平成 27 年度会計収支補正予算について ④平成 28 年度事業計画（案）及び会計収支予算（案）について ⑤福祉サービスに関する苦情解決の実施規程に基づく第三者委員の選考について ⑥各規程の一部改正について
評議員会	第 40 回	5 月 20 日	能美市役所	①理事の補充選任について
	第 41 回	5 月 20 日	能美市役所	①平成 26 年度事業報告及び各会計収支決算の承認について
	第 42 回	7 月 30 日	ふれあいプラザ	①定款の一部改正について
	第 43 回	3 月 28 日	ふれあいプラザ	①理事の補充選任について ②監事の補充選任について
	第 44 回	3 月 28 日	ふれあいプラザ	①専決事項の報告について ②平成 27 年度会計収支補正予算について ③平成 28 年度事業計画（案）及び会計収支予算（案）について ④福祉サービスに関する苦情解決の実施規程に基づく第三

				者委員の承認について ⑤各規程の一部改正について
監査会		5月14日	ふれあいプラザ	平成26年度監査

②会員会費制度の推進（7月推進月間）に取り組み、まちぐるみで地域福祉活動を進める気運を盛り上げた。・・・資料1

③能美市地域福祉活動計画第2次計画の3年目の取り組みを市民参加と協力を得て、推進のための3委員会（委員43名）やあたたかい地域づくりの会（委員9名）、評価委員会（委員11名）を開催し、市民主体の福祉のまちづくりを推進した。・・・資料2

○推進のための委員会・・・31回開催

- ・ここに寄り添える人づくり委員会・・・11回開催
- ・地域見守りネットワークづくり委員会・・・10回開催
- ・支えあいのしくみづくり委員会・・・10回開催

○あたたかい地域づくりの会・・・3回開催

○評価委員会・・・2回開催

○市民への報告・・・「春 まち ぽかぽか プロジェクト(P)」と銘打ち、2月27日(土)～3月6日(日)の9日間にわたり市内各会場において、21のプログラムを開催した。その中で、3月6日(日)には、「地域福祉のつどい」を寺井地区公民館において開催した。この間の参加者数は、延べ1,261名であった。
また、「能美たすかったわ～大賞」、「能美ぽかぽかフォトコンテスト」の表彰式及び福祉施設2か所へのプルタブを換金した車椅子の授与式もあわせて行った。

④広報誌「ほほえみ」の発行（年4回）やホームページ（アドレス <http://www.nomi-shakyo.jp/>）を運営し、地域福祉活動やボランティア活動の啓発と情報を発信した。

○ほほえみ40号～43号の発行（3ヶ月に1回）

○ホームページを随時更新し、広く市民への情報提供をはかった。

II. 福祉意識の醸成へのはたらきかけの取り組み

①各種の大会や集いを開催し、市民の福祉意識を啓発したり、地域での支えあい、助けあい活動などへの参加を促した。

	大会や集い名	月日	会場	参加者数	備考
1	第11回能美市社会福祉大会 ※能美市民ボランティアフェスティバルと併せて開催	8月2日	根上総合文化会館	360名	社会福祉功労者等表彰 (31名4団体)
2	地域福祉のつどい ※春まちぽかぽかPの中の地	3月6日	寺井地区公民館	140名	「住民主体の助け合いと生活支援を考えよ

	域見守りネットワークづくり 委員会の企画と共催				う！」をテーマにした 講演と活動団体の事例 発表等
--	----------------------------	--	--	--	---------------------------------

②他の福祉施設や団体に事務局職員等が参加、福祉、介護の課題の検討、組織運営への支援、事例報告等を行った。

○理事・監事・評議員関係

- ・社会福祉法人湯寿会 ・社会福祉法人陽翠水 ・社会福祉法人なごみの郷
- ・社会福祉法人石川県社会福祉協議会

○各種委員会委員関係

- ・能美市地域福祉計画評価委員会（福祉課）
- ・能美市自立支援協議会、定例支援会議、事務局会議（福祉課）
- ・能美市虐待防止協議会、専門部会（福祉課）
- ・能美市自殺防止対策地域連絡協議会（福祉課）
- ・能美市子ども児童専門部会（生涯学習課）
- ・能美市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議ひとの創出ワーキンググループ（子育て支援課）
- ・能美市地域力創出支援事業審査会（地域振興室）
- ・能美市地域包括ケアシステム構築のための専門部会「在宅医療・介護連携推進」（「メモリー・ケア・ネットワーク能美」）（高齢者かがやき支援室）
- ・コミュニケア緑が丘運営推進会議（グリーンケア芳珠）

③ふれあい福祉事業を実行委員会形式で開催し、地域における「福祉意識」を盛り上げた。また、地域福祉への理解を進める研修会を開催し、福祉の専門職、施設、事業所の力を地域で活かして頂くよう働きかけた。

	大会や集い	月日	会場	参加者数	備考
1	ふれあい福祉運動会 ※関係者による実行委員会形式	6月28日	根上総合文化会館	400名	準備会1回、実行委員会2回の開催
2	こころに寄り添える人づくり講座（全4回） ※春まちばかばかPの中で、「ともろっさ・能美」と「こころに寄り添える人づくり委員会」の企画として開催	①1月20日 ②2月9日 ③2月25日	①障害者福祉サービス事業所一步 ②三草二木西園寺（小松市野田町） ③障害者支援施設星が岡牧場	延べ151名	施設に赴いて、当事者や施設職員からお話をお聞きし、障害持つ方に対する“心に寄り添う関わり方”を研修

		④3月6日	④寺井地区 公民館		
3	聴覚障害者のつどい「福 耳ネット」 ※要約筆記サークルみ みずくの協力を得て実 施	第4水曜日 年間12回	寺井地区公 民館	会員14名	当事者同士の 交流や障害者 サービスにか かる情報交換
4	視覚障害者のつどい「ぬ くもりサロン」(全2回)	①10月10日 ②10月21日	①ふれあい プラザ ②三草二木 西園寺	9名	当事者同士の 交流や障害者 サービスにか かる情報交換
5	福祉施設職員交流研修 会(全2回)	①7月27日 (石川県社 会福祉協議 会との共催) ②11月27日	①ふるさと 交流センタ ーさらい ②ふれあい プラザ	①50名 ②20名	①講演とグル ープワーク 「地域包括ケ アシステムの ねらいと多職 種連携」 講師：日本福祉 大学原田正樹 氏 ②講演とグル ープワーク 「福祉施設の ボランティア 受け入れのイ ロハ」 講師：大阪赤十 字病院附属大 手前整肢学園 福祉相談係長 後藤光弘氏

④福祉団体、福祉活動グループの事務局を担当するなど、組織活動を支援し、市民や団体の会員相互のふれあい交流事業や福祉のまちづくり活動へ働きかけ、福祉意識の醸成を図った。

○老人クラブ連合会(本部・3支部)、身体障害者福祉協議会(本部・3支部)、母子寡婦福祉連合会の事務局支援

○民生児童委員協議会(本部・3地区)事務局を担当し、連携して地域福祉を推進

○地域(まち)で障がいを考える会「ともろっさ・能美」の事務局支援

○まだまだ元気な高齢者サポートグループ「ほがらか会」の事務局支援

市民提案型協働事業「閉じこもり予防ミニデイサービス」を行うボランティアグループの活動（3会場で年間147回開催 参加高齢者延べ855名 運営ボランティア延べ363名）の事務局及び送迎のための車両の貸出をするなどし、支援した。

⑤市民の善意による寄付金を愛の福祉資金として積み立てた。

○9件 総額 432,018 円

Ⅲ.地域支えあい体制づくりの推進の取り組み

①★見守りネットワークの構築を推進した。・・・資料3

	事業名	月日	会場	備考
1	地域福祉委員会への活動支援	根上地区設置数…21 か所 寺井地区設置数…24 か所 辰口地区設置数…44 か所	1 か所あたり活動費 10,000 円を 89 カ所に助成	
2	地域福祉委員会活動ヒント探し 講座入門編の開催	7 月 23 日～10 月 22 日(月 1 回 全 5 回)	地域福祉に対する 理解、課題を持つ 方々の地域での暮 らし、地域福祉の 活動等は…などに ついての研修及び 実習	15 町(内)会より、 26 名の受講者の 推薦があった。 講座受講修了者 24 名を地域福祉 委員会活動推進 員に登録した。 ※登録累計 224 名
3	地域福祉委員会活動ヒント探し 講座実践編の開催	9 月 11 日～11 月 5 日(月 1 回 全 3 回)	各町(内)会・町内 会で地域の課題把 握のための手法と して「住民流支え 合いマップづく り」を実習	地域福祉委員会 活動推進員のい る町(内)会のう ち 6 町(内)会よ り 25 名が受講し た。 ※中・大浜・大長 野・佐野・倉重・ 下徳山
4	地域福祉委員会活動推進会議	①43 名参加 能美市の地域包 括ケアシステム 構築の体制と地 域の助け合いの 必要性の理解と 地域での助け合 いの実態調査 ②60 名参加	①10 月 2 日 ふれあいプラザ ②3 月 22 日	H26 年度までに 充実編を修了し た地域福祉委員 29 町(内)会を対 象に活動の充実 のための協議と 情報交換の機会 として開催 ※中庄・西二口・

		講演:「みんなです める地域包括 ケアシステムの 理解」 講師:同志社大学 准教授永田祐氏	ふれあいプラザ	浜・山口・大成・ 西任田・寺井横 町・新保・泉台・ 寺井九谷・東任 田・和気・宮竹・ 三ツ屋・鍋谷・緑 が丘・松が岡・五 間堂・道林・吉 原・粟生・牛島・ 吉光・末信・火 釜・岩本・下開 発・来丸・三ツ口
5	福祉推進員の委嘱と研修	任期2年で119名を委嘱(任期H28.3.31まで) 活動費の助成や研修会の開催等、活動を支援した。		
6	一人暮らし高齢者バスハイキングの開催 ※民生委員児童委員の協力を得て実施	7月10日・17日 の2回に分けて開催	粟津温泉「法師」	参加者数 178名
7	ふれあい弁当の実施 ※ボランティアによる手作りお弁当をボランティア等が届けることを通じて、地域の見守りの機会とした。民生委員児童委員、福祉推進員、ボランティア等の協力を得て実施	根上地区	月2回(第2・第4金曜日)	23回開催 延べ提供食数 355食 延べ協力ボランティア数 352名
		寺井地区	月2回(第1・3水曜日)	23回開催 延べ提供食数 684食 延べ協力ボランティア数 543名 (寺井高校JRC部101名含む)
		辰口地区	月2回(第2・4火曜日)	23回開催 延べ提供食数 824食 延べ協力ボランティア数 675名
		★子育て応援弁当・・・資料4 基本月6回(ふれあい弁当開催日に合わせ) 63回開催 延べ利用者数 25名 延べ提供食数 451食		
		「ひな・もみじ弁当」の友愛訪問(中学ボランティア活動の機会として)		
		根上中学校	2月26日	56名参加
		寺井中学校	11月4日	37名参加
		辰口中学校	2月23日	102名参加

8	いきいきサロン活動への支援 ※いきいきサロンとは町(内)会、町内会単位で行われている高齢者等の閉じこもり予防や見守りのつどい	根上地区	設置数 20 か所	開催回数 298 回
			延べ参加者数	6,493 名
			延べボランティア数	2,011 名
		寺井地区	設置数 22 か所	開催回数 305 回
9	一人暮らし高齢者昼食会開催への助成		延べ参加者数	5,457 名
			延べボランティア数	1,393 名
		辰口地区	設置数 34 か所	開催回数 294 回
			延べ参加者数	5,769 名
10	音訳テープの提供		延べボランティア数	1,351 名
		いきいきサロンボランティア交流研修会		
		テーマ 「いきいきサロンで取り組む介護予防」		
		月日 10 月 8 日		
11	生活支援、買い物支援等を行う、市民団体や市内 NPO 法人への活動支援	会場 寺井地区公民館		
		講師 能美市高齢者かがやき支援室 榊田雅美氏		
		参加人数 95 名		
		会員会費を財源とし、いきいきサロン 76 か所へ、 計 2,922,000 円を助成した。		
11	生活支援、買い物支援等を行う、市民団体や市内 NPO 法人への活動支援	地域福祉委員会（いきいきサロン）が自治公民館等を会場に開催する一人暮らし高齢者昼食会に対し、対象者 1 名あたり 700 円を助成した。		参加者数 369 名
		聴覚に不都合のある方に対し、音訳ボランティアたんぽぽの協力を得て、広報のみ、議会だより、社協広報誌ほほえみ、ボランティア情報誌ボラはあとをテープに音訳、提供した。		利用者 4 名 その他図書館などへ提供
		①能美市商工会女性部の買い物弱者への移動販売活動（年 22 回開催 市内中山間地を中心に実施）について、活動費 50,000 円を助成すると共に、活動に同行する等し、地域福祉委員会やいきいきサロン等との連絡調整、情報提供などの支援をした。		
		②町内の課題把握、その解決方法の検討の中から、生活支援の活動を行うことを目的に立ち上がった NPO 法人えんがわ（泉台町）に対し、活動費 50,000 円を助成すると共に情報提供など、活動を支援した。		

12	地域のお店屋さんの見守り活動への支援（企業ボランティアセミナーとして開催）	のみ商業協同組合が主催する研修会の運営支援 「おみせやさんが地域の見守り活動に協力！～超高齢社会に必要とされる、地域と商店のつながり～」 月日：3月4日 会場：ふれあいプラザ 講師：(株) 金沢倶楽部シニアマガジン編集長 米田洋氏	参加者数 28名
13	歳末時のお見舞金の贈呈	共同募金歳末たすけあい募金を財源とし、民生委員児童委員の協力を得て、12月11日から31日にかけて、市内の生活困窮者等に対し、お見舞金を贈呈した。	贈呈件数 296件 贈呈金額総額 1,480,000円 (一律 5,000円)

②生活援助員（ヘルパーステーション能美介護福祉士）が地域の情報と連携しながら、要援護者の見守り、いきいきサロン等の出前講座講師、各種計画の委員会への出席等を通じて、介護予防や生活支援の活動を支援した。

○安否確認のための要援護者一声訪問	101件
○いきいきサロン等への出前講座講師	11件
○能美市地域福祉活動計画地域見守りネットワークづくり委員会	12回

③同じ立場同士の支えあい活動を支援した。

	事業名	月日	会場	参加者数
1	家族介護者のつどい ※介護を考える会の協力を得て実施	11月11日	ふれあいプラザ	17名
	介護はればれテレフォン ※介護を考える会の協力を得て実施	5回開催（2か月に1回第2水曜日）	ふれあいプラザ	相談件数 4件
	ほっとあんしんサロン ※介護を考える会の協力を得て実施	12回開催（毎月第2水曜日）	ふれあいプラザ	101名
	高齢者のつどい「ふれあい喫茶」	48回開催（毎週水曜日）	寺井老人福祉センター 亀齢荘	延べ914名
2	親子サロンとママ友相談の開催 ※スタッフとして有償ボランティア	43回開催（毎週木曜日）	北部児童センター	257組
		42回開催（毎週土曜日）	ふれあいプラザ	807組

	ティアを配し実施	日)		
		42 回開催 (毎週火曜日)	岩内児童館	387 組
	のみん広場の開催 ※春まちばかぽか P の中で能美市地域福祉活動計画「支えあいのしくみづくり委員会」「子育て応援委員会」合同企画として開催	①10 月 2 日 ②12 月 9 日 ③2 月 27 日	ふれあいプラザ	合計 429 組 ※カフェと絵本コーナー、ミニコンサート、ふれあいスペース等

④地域で安心・安全に暮らすために各種相談を実施した。

	相談事業	実施日と会場	件数や参加者数	備考
1	生活福祉資金等貸付事業の申請相談の窓口や償還のための支援 ※県社協からの受託含む	随時	【市福祉資金利用件数】 H27.3.31 貸付件数 9 件 貸付件数 0 件 返済完了 2 件 H28.3.31 貸付件数 7 件 合計 7 件 【県社協生活福祉資金】 合計 81 件 ・福祉資金・教育資金・緊急小口資金 57 件 ・離職者支援資金・総合支援資金 21 件 ・臨時特例つなぎ資金 3 件	※貸付決定は市社協が行う ※貸付決定は県社協が行う 市社協は、市内における利用申請、償還支援、連絡調整を行う。 実相談件数 45 件 延べ相談件数 144 件
2	福祉サービス利用支援事業の利用相談の窓口と生活支援員への支援 ※県社協からの委託事業	随時	初回相談件数 7 件 利用者数 (H27 末) 17 名 ・知的障害 4 名 ・認知症 8 名 ・その他 5 名	※実際の契約は基幹社協等が行う
3	心配ごと相談所の運営と相談員の委嘱	①5 日開催 寺井地区公民館 ②15 日開催 辰口福祉会	開催回数 36 回 相談件数 55 件	各地区 9 名計 27 名の相談員を委嘱 ※相談員は民生委員児童委員、人権擁護委員、行政相談員で、任

		館 ③25 日開催 根上窓口セ ンター		期は H25 年 12 月から 3 年間。
	心配ごと相談員研修 会	月 日：2 月 23 日 会 場：ふれあいプラザ テーマ：「会話は気持ちのキャッチボール」 講 師：ポテンシア金沢コミュニケーションアドバイザー寺田明子氏		
4	弁護士無料法律相談	ふれあいプラザ	開催回数 24 回 相談回数 106 件	1 回 30 分で 4 名まで 要予約
5	行政書士無料相談	年 6 回 ふれあいプラザ	開催回数 6 回 相談件数 12 件	県行政書士会小松支 部の協力を得て実施 要予約
	行政書士無料講習会 ①「よくわかる相続 の基礎知識」 ②「自分でできる相 続手続き」 ③「遺言書作成の基 礎知識」	年 6 回 ふれあいプラザ	延べ参加者数 38 名	

⑤ボランティア・コミュニティ活動支援センターを運営し、福祉の人づくりや地域づくりを進めた。

○ボランティア・コミュニティ活動支援センター運営委員会開催（年 3 回）

- ・ボランティアグループの活動助成の協議検討
- ・「喫茶あい・テラス」の運営に関する協議検討
- ・次年度のボランティア事業の企画について協議検討

○ボランティア活動者を登録し、ボランティア保険の加入を助成した。

- ・ 89 グループ 3,868 名

○ボランティアの相談、斡旋を行った（計 43 件）

- ・イベントに関するボランティアの相談と派遣 13 件
- ・高齢者・障害者への支援に関するボランティアの相談と斡旋 30 件

○第 8 回能美市民ボランティアフェスティバル 8 月 2 日（日） 根上総合文化会館

- ・実行委員会開催数 10 回（準備会、報告集編集委員会含む）
- ・実行委員会委員数 47 名

○ボランティアグループへの活動助成を行った。

- ・ 7 グループに対し、総額 296,000 円

○ボランティア器材（車いす・かき氷器・ポップコーン機器・点字器・室内用各種レク器材等）の貸出を行った。

- ・町会、いきいきサロンからの依頼 72 件
- ・要介護者をもつ家族からの依頼 6 件
- ・学校等からの依頼 12 件
- ・ボランティアグループからの依頼 7 件
- ・その他、個人からの依頼 20 件

○福祉協力校を指定し、活動費を助成した。

- ・市内 8 小学校、3 中学校、1 高等学校に対し、総額 990,000 円の助成
- ・指定校の活動連絡会の開催（7 月 28 日 ふれあいプラザ）

講演：福祉教育の「今」と「これから」

講師：日本福祉大学教授 原田正樹氏

参加者数：34 名（教諭 20 名、ボランティア 14 名）

○福祉協力校における福祉教育カリキュラムなどへのアドバイスなどをし、推進を支援した。

- ・講師の派遣、情報提供

○誰もが集いやすいボランティアセンターとして、ボランティアや市民が集い、ボランティアに関する情報交換やふれあい語り合える場「喫茶あい・テラス」を開催した。（ふれあいプラザを会場に年間 2 回開催）

○市ボランティア連絡協議会（市・3 地区）の活動を事務局として担当、支援した。

- ・研修会、交流会の開催
- ・市ボランティア連絡協議会情報誌「ぼらはあと」の年 2 回発行支援

○ホームページ（能美市ボランティア・コミュニティ活動支援センター <http://nomi-vc.net>）の運営やボランティアセンターだより（毎月 1 回）を発行し、ボランティアに関する情報を発信した。

○減災、防災のための自助、共助、公助のネットワーク「能美市民防災ネットワーク」の事務局を担当し、その活動を支援した。

- ・定例会 年 5 回開催
- ・出前講師派遣 21 回（町会やいきいきサロン、婦人会等へ）
- ・研修会 年 3 回開催

○災害時に設置する災害ボランティアセンターについての研修会への職員派遣及び情報収集を行った。

○傾聴ボランティアを派遣し、要援護者の孤独感の解消に努めた。

- ・対象者は 12 名（一人暮らし高齢者等）
- ・登録傾聴ボランティア 45 名
- ・年間 107 回派遣

○各種ボランティア講座を開催し、ボランティアへの関心を掘り起こし、その活動を支援した。

事業（講座）名	実施月・回数	参加人数	内容
ジュニアボランティアクラブ	10～12 月 (全 20 回)	延べ 157 名	小学生と高齢者とのふれあいを通じて、ボランティア体験を実施し

体験・講座				た。
	中学生ボランティアチャレンジ体験	7月～8月 (全4回)	計366名	中学校生徒会が企画し連携、環境保全などの活動を実施した。 ①根上中学校(7月26日) 「We are 松々レンジャーズ!! 大きな松を育てマツ」 ②寺井中学校(8月1日) 「自分たちの町をキレイにしようlin 和田山」 ③辰口中学校(8月9日) 「手取の川までイッテ Clean」 ④第8回能美市民ボランティアフェスティバルの運営スタッフ体験
	高校生ボランティアチャレンジ体験	8月(全2回)	延べ9名	第8回能美市民ボランティアフェスティバルの運営スタッフ体験 ※石川県社協サマーボランティア体験にあわせて実施
	企業ボランティアセミナー ※企業の地域貢献支援	2回	①小松能美地域ライフサポートセンター 34名 ②のみ商業協同組合(再掲) 28名 計62名	
支援	福祉協力校での福祉ボランティア体験学習	通年	3,704名	ボランティアが講師となり、車イス・アイマスク等の体験学習を通じて、高齢者や障害をもつ方々との交流を行った。
	傾聴ボランティア連絡会「うなづき」の活動支援	年6回	会員45名	①傾聴活動実践者同士による悩みの相談、課題の共有、解決への検討等の機会を支援した(年間6回開催) ②専門知識のフォローアップ研修の開催を支援した(年2回開催) ③市民への傾聴ボランティアの啓発研修の開催を支援した。 月日:3月5日 会場:根上総合文化会館 講師:(財)メンタルケア協会指導 精神対話士 坂尻他津子氏 参加者:50名

○各種の収集窓口（ボックス）を設置した。

- ・老人福祉センター「白寿会館」、老人福祉センター「亀齢荘」、旧辰口健康福祉センター、ふれあいプラザ

収集物	収集取扱い団体	送付先	用途
エコキャップ	障害者サービス事業所一歩	日本委員会（JVC） ～世界の子どもにワ クチンを～へ	エコキャップ 800 個で 子供 1 人のポリオワク チンになる。
		積水樹脂株式会社へ	細かく粉碎し、リサイ クル製品に生まれ変わ る。
プルタブ	能美市社会福祉協議会ボラ ンティア・コミュニティ活動 支援センター	★H27 年度に集めたプルタブは、 <u>合計 888 kgであった。</u> 金属廃品回収業者に売却し、換金し、H24 年度 から継続して、車椅子を購入し、市内の福祉施 設 2 か所へ寄贈した。 【寄贈先】 ①特別養護老人施設「湯寿園」 ②デイサービス「灯」	
ベルマーク	ボランティアグループ「山ぼ うしの会」等	ベルマーク財団へ	ベルマークは 1 点 1 円 になる。一部は発展途 上国の教育支援に使わ れ、一部が集めた地域 の学校教育備品の購入 に使われる。
使用済インクカ ートリッジ	石川県社会福祉協議会ボラ ンティアセンター	キャノン・エプソン・ リコーなどの企業へ	使用済インクカートリ ッジの回収を通じて、 ベルマーク運動に参 加。用途はベルマーク に同じ。
古切手、書き損じ ハガキ		公益財団法人ジョイセ フ(家族計画国際協力) へ	アジア・アフリカ中南 米の発展途上国の保健 活動（予防接種や保健 師の活動）の助成に使 われる。
使用済テレフォ ンカード、プリペ イドカードなど			

⑥ファミリー・サポート・センターを運営した。

○ファミリー・サポート・センター運営委員会の開催（年 4 回）

○会員研修会の開催（年 3 回）、研修会及び交流会の開催（年 3 回）

会員数		支援内容	利用件数
依頼会員	266 名	保育園までの送迎	214 件
協力会員	85 名	子どもの習い事等の送迎	239 件
両方会員	69 名	障害を持つ子どもの預かりや送迎	156 件
		保育施設の保育前や保育終了後の預かり	21 件
		放課後や放課後児童クラブ終了後の預かり	241 件
		保護者等の就労の際の援助	9 件
		病後児の預かり	10 件
		保護者の病気、外出等の際の援助	39 件
計			929 件

⑦★産前産後の方々に子育て応援ヘルパーを派遣した。

○産前の体調不良の時期、または産後間もない時期等に家族から支援を受けられない方等に対し、母子保健コーディネーターと連携し、家事や育児の手伝いを行う子育て応援ヘルパーを派遣した。（利用要件有）子育て応援ヘルパーは、ファミリー・サポート・センターの協力会員にさらに必要な研修を受けて頂き、有償で活動して頂いた。

子育て応援ヘルパーの登録人数 13 人
 利用実人数 6 人
 延べ利用人数 19 人

⑧中高年の生きがいと健康づくりを通じた介護予防活動として、3 会場で教室と各種講座を開催した。

○ほがらかロコモ体操教室

開催会場	開催回数	参加者数
白寿会館	42 回開催（毎週月曜日）	延べ 307 人
亀齢荘	47 回開催（毎週水曜日）	延べ 366 人
辰口福祉会館	50 回開催（毎週木曜日）	延べ 288 人

○脳活道場（H27.5～10 月末まで）

内 容：体操、簡単マジック、太極拳、ペタンク、絵手紙、料理教室、ツボ押し、ヨガ等

開催会場：白寿会館、亀齢荘、辰口福祉会館

開催回数：69 回開催

参加者総数：281 人

⑨★生活支援基盤体制の構築に取り組んだ。・・資料 5

○1 層（市全体）における生活支援コーディネーターの設置（正規職員 兼任 1 名）

○1 層と 2 層（中学校区）の生活支援コーディネーター会議の運営

○生活支援サービス推進協議体の運営

⑩★生活支援の新たな担い手の養成講座を開催した。・・・資料6

○「たすけあい・ライフサポーター活動支援講座」（講義と実習）の開催

開催日時	H28.1.21 と 21 日及び、実習（4 月～ 同行訪問）
実習受入事業所	なのはな畑・ニチイケアセンター能美・ヘルパーステーション能美の 3 か所
受講者数	29 名

⑪老人福祉センターの指定管理を受け、運営をした。

施設名	延べ開館日数	延べ利用者数
白寿会館	258 日	28,801 名
亀齢荘	334 日	41,319 名
計	592 日	70,120 名

IV. 能美市寺井高齢者支援センターの運営（H27. 10. 1～H28. 3. 31）

①★高齢者の介護、認知症、介護予防、権利擁護の相談窓口や介護予防プランの作成、包括的マネジメント等を行った。・・・資料7

【能美市寺井高齢者支援センター運営業務報告】

平成 27 年 10 月 1 日から、能美市より受託し、ふれあいプラザ 2 階において、業務を開始しました。業務開始にあたり、各種団体の会合、地域福祉委員会、いきいきサロン等に出向いての PR や社会福祉協議会の広報誌掲載等により、高齢者支援センターの役割、窓口の周知を図りました。

半年間の業務を振り返り、人口減少や急激な少子高齢社会の進展に伴い、財政面、人材面等から、今後、「公助」・「共助」の大幅な拡充は望めないことを受けて、改めて、自立支援に向けての地域での社会参加、介護予防、生活支援の「自助」・「互助」活動の取り組みの重要性を感じています。

高齢者支援センターは、高齢者の方々がいつまでも住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、そして地域包括ケアシステムの構築の中核であることを意識しながら、各業務に取り組んでいきたいと考えています。

○各実績については、資料 7 のとおり

○地域包括システムの構築

行政や関係機関と連携、各種の研修・連絡会等に参加しながら、生活支援コーディネーター、認知症地域支援員、地域生活医療コーディネーターの各業務に積極的に取り組みました。

○地域ケア会議の開催

個別のケースを通じた介護支援事業者・医療機関・民生委員児童委員・地域福祉委員会等ボランティア、関係者によるネットワークの構築を進める手法として、「地域ケア会議」

が位置づけられていますが、本年度は開催準備にとどまり、処遇困難事例検討会を2件、開催することに終始しました。

○介護支援専門員に対する支援・指導の実施

介護支援専門員が相談しやすい窓口を心がけ、一人で困難事例を抱え込まないように、必要な後方支援を行い、困難事例検討会に結びました。

また、毎週火曜日には、各高齢者支援センターと高齢者かがやき支援室による「ケアプラン会議」が開催され、自立支援を目的としたプランかどうか等、検討をしました。

○権利擁護

成年後見制度の相談が2件あり、いずれも市長申し立てに結びました。高齢者虐待については、総合相談を受ける段階からアンテナを立てることが早期発見になりますので、成年後見制度の相談等もあわせて、総合相談に真摯に取り組み、権利侵害の防止や早期対応につとめていきます。

○介護予防支援

平成28年3月から始まった介護予防・日常生活支援総合事業は、事業対象者が介護予防・生活支援サービス事業（健幸ライフ教室、ほがらか会）に参加できるようになったことを受け、利用者が主体的に介護予防・自立支援に取り組めるような介護予防プランを作成し、支援をしました。

○その他

在宅医療介護連携、認知症施策を推進する専門部会「メモリー・ケア・ネットワーク能美」、地域での支え合いを検討する専門部会「能美市生活支援サービス推進協議体」に参加し、オール能美市体制で地域包括ケアシステムの構築を進めました。

V. 介護保険等の在宅福祉サービスの提供

①福祉移送サービスとして、公共交通機関を利用しにくい方の移動を支援した。

当該年度末登録者数	37名
延べ利用回数（片道を1回とする）	393回
稼働実日数	142日

②生活支援ヘルパー派遣事し、一人暮らし高齢者の生活を支援した。

当該年度末対象者数	7名
延べ実利用者数	87名
延べ利用回数	299回

③介護保険サービス等の提供する2事業所を経営し、地域福祉との連携を図りながら、質の高いサービスを提供した。・・・資料8

・ヘルパーステーション能美

・能美居宅介護支援事業所（H27.4末までは、能美ねあがり居宅介護支援事業所、能美ケアプランセンターたつのくちの2カ所）

【介護保険・障害者総合支援事業部門事業報告】

能美市社会福祉協議会は介護保険事業として訪問介護事業（ヘルパーステーション能美）・居宅介護支援事業（能美居宅介護支援事業所）の2事業所、また障害者総合支援法として居宅介護サービス事業（ヘルパーステーション能美）を運営しております。居宅介護支援事業所は、支所の廃止による事業所移転と同時に、これまであった「ねあがり居宅介護支援事業所」と「ケアプランセンターたつのくち」の2事業所を一つに統合し、平成27年5月からは「能美居宅介護支援事業所」として事業を展開しました。

また、平成28年3月より新たに能美市が取り組みを始めた介護予防・日常生活支援総合事業では、ヘルパーステーション能美は、みなし指定事業所として、第一号訪問事業を展開し、可能な限り居宅において自立した日常生活が営めるよう介護予防訪問介護相当サービスを開始しました。収入面では、平成27年度の介護報酬改定で、特に訪問介護事業所にとっては厳しい改正となり、2事業所合わせた介護保険収入が前年度に比べ約4,800千円の減、障害者福祉サービス事業収入では約400千円の減と、併せて5,200千円と大きなものとなりました。反面、支出面では、職員が各事業所1名ずつ減ったことにより人件費が約7,800千円の減、また、事業費については約1,000千円の減と、このあたりは経費節約に努めた結果が出ております。このように、介護保険収入等で大幅な減収になりましたが、職員の退職等により支出も抑えられ、事業収支はわずかな黒字決算となりました。

しかしながら、職員数の減少で新規契約が困難となり、今後、収入面での大幅な増収は見込めず、両分野とも経営面においては依然として厳しい状況にあることは変わりありません。

ヘルパーステーション能美は、介護保険収入が前年度比11.7%の減収となり、考えられる要因としては、介護・予防を含めた利用実人数が、入院・入所や、小規模多機能施設の利用等で減少したこと。また、正規職員・登録ヘルパーの退職により人員不足となり、新規利用者の受け入れが困難になっていることがあげられます。平成27年5月から市中央部にある寺井地区に事務所を移転したことにより、訪問時の移動時間等の短縮が図られると予想しておりましたが、訪問延べ時間に占める移動延べ時間を割合で見ますと、前年度、約30%あったものが、今年度は24%と、拠点変更に伴う大きな変化は見られませんでした。

しかしながら、市内では訪問介護事業所が依然少ないことや、困難事例の中でのサービス提供が半公共性をもつ社会福祉協議会としては避けては通れない所で、決して営利だけを目的にした事業展開は出来ないと自負するところです。

また、障害者総合支援法では、障害福祉サービス事業の給付費が、前年度比24.1%の減収となりました。精神疾患の方などの、前日キャンセル等、訪問についての不安定要素が相変わらず多い事や、居宅介護の支援内容についての見直しで、算定単価が半分以上と、低くなるケースも見受けられ、事業継続について検討する必要性が出てきています。

居宅介護支援事業所については、特定事業所加算の算定を継続しながら、介護給付でのプラン作成件数は、前年度2,192件に対し、今年度1,902件と、前年度比13.2%の減、また、予防給付でのプラン作成件数は、前年度の452件に対し今年度365件となりました。

これは、本体である能美市社会福祉協議会が寺井高齢者支援センターの受託に伴い、ケアマネジャー1名が異動になった事で、利用者の調整を行ったためであり、ケアマネジャー1人当りの担当件数は、介護給付のプランでは平均約 31.5 件と、前年度より一人当たりの担当件数が約 1 件増えています。

また、介護報酬改定に伴い、認知症加算（1,500 円/件）と独居高齢者加算（1,500 円/件）が無くなったが、特定事業所加算Ⅱ（3,000 円/件）が算定体制の変更により特定事業所加算Ⅱ（4,000 円/件）となったことにより、介護保険収入が総合的にはプラスとなっています。

しかしながら、要介護 1・2 を占める割合が全体の 74%と多く、受託である予防プラン作成については、介護給付でのプランと同等の時間を要するものの単価が低く、入院・入所・死亡等による利用者の減も多いことから状況的にはこれまでとあまり変化はありません。

寺井高齢者支援センターを受託している社会福祉協議会が経営する居宅介護支援事業所として、介護給付でのプラン作成に支障が出ない範囲で、困難事例や予防プランを積極的に受け入れ、バランスよく事業を推進する必要があります。

いずれの事業所につきましても、利用者の施設入所、長期入院、死亡等予測できないこともある中、介護事業所全体のバランス等を視野に入れ、新規顧客獲得に努力し、運営に係る支出面でウエイトを占める人件費に考慮しながら、より質の高いサービスの提供を目指すべく人材のスキルアップを図り、経営面では最小の経費で最大限の効果を得るよう経費節減に努めました。

今後、更なる高齢化や家庭環境の核家族化、在宅における家族介護力の低下が進む中、平成 28 年 3 月より開始された、介護予防・日常生活支援総合事業にも積極的に関与しながら、いつまでも住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、利用者に常に寄り添った姿勢でこれからも事業に取り組みます。